

**できることを増やし、自ら生かすことができる生徒を目指した授業づくり
～今の充実と将来を見据えた授業実践を通して～**

提案者 有田 成志 笹河 博幸

1 学部研究主題設定について（紀要pp. 81－83）

わたしたちは、生徒がこれまで身に付けた力を学校や家庭生活で十分に生かすとともに、社会の中で生かすことのできる力として身に付けていくことを目指している。そのために高等部では、これまで教育課程編成の際の視点として設定してきた「働くこと」と「余暇」の視点を、より具体的な水準において反映させることが必要と考えた。そのために生徒の今の姿と将来の姿から分析を行うことで授業づくりで大切にしたい視点を導き出し、日々の授業実践の充実を図ることにした。


そこで、全体研究主題にある「今を、将来をよりよく生きる」姿を、「できることを増やし、自ら生かすことができる」姿としてとらえ、その姿を目指した授業づくりの在り方を探った。

2 研究内容と方法（紀要p. 84）

(1) 研究内容

- 〈研究内容 1〉
授業づくりで大切にしたい力の導き出し及び目標設定の手続きの整理
- 〈研究内容 2〉
できることを増やし、自ら生かすことのできる生徒を目指した授業実践、評価の在り方
- 〈研究内容 3〉
卒業後の生活に効果的に引き継ぐために必要な情報の精選や引継ぎ方法

(2) 研究方法

研究内容 1 に関して	研究内容 2 に関して	研究内容 3 に関して
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部教育目標具現化の共通理解 ・ 学部、生徒の課題の整理と分析 ・ 卒業生のアンケート及びアンケート結果の分析 ・ 個別の指導計画プレシートの活用方法の検討 ・ 授業づくりにおける書式の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価における課題の整理 ・ 評価シートの検討 ・ 各授業実践における評価シートの活用と改良 ・ 実践事例の検討 ・ 実践事例のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サポートシートの見直し及び共通理解 ・ 働くことに関する課題表の作成 ・ 進路先及び関係機関との情報交換 ・ 卒業生へのアフターフォロー

3 研究の実際

(1) 研究内容 1（紀要pp. 85－92）

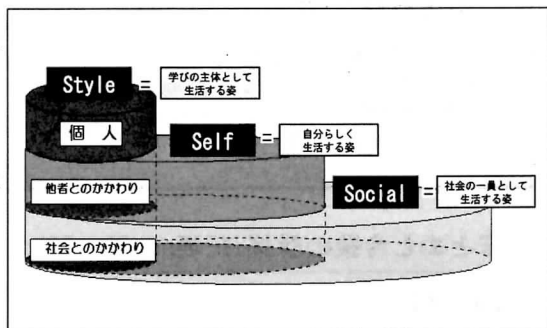
授業づくりで大切にしたい力を具体化するために、高等部に在籍している生徒の「現在の姿」と将来の姿としてとらえるため「本校卒業生の姿」の2点から、個別的教育支援計画とアンケート調査結果についての分析を行った。

その分析結果と、社会の期待（現場実習先）を踏まえて導き出した必要な力を、授業づくりの視点として生かしやすいものとするために再度分類した。

その結果、「Style（学びの主体として生活する姿）」と、「Self（自分らしく生活する姿）」、「Social（社会の一員として生活する姿）」の三つの視点（以後、3Sと表す）を授業づくりの視点として設定することができた。

そして、この3Sを踏まえた授業づくりにおける目標設定に大きな役割を果たすものとして、個別の指導計画プレシート（以後、プレシートと表す）の書式を改訂し、重点目標に対する基礎的な場と応用する場との関連性を考えながら、目標達成に向けての取組を行うことができるように目標設定までの手続きを整理した。

これらのことにより、個別的教育支援計画→プレシート→個別の指導計画→日々の授業実践という授業づくりの流れがより明確になるとともに、今の充実と将来を見据える視点にアプローチするという、より積極的な取組ができるようになった。



授業づくりで大切にしたい3S

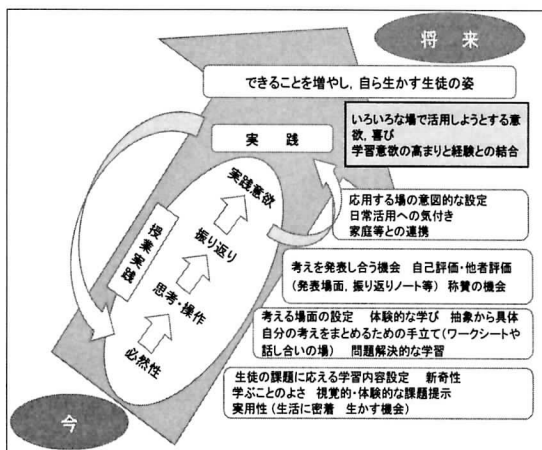
(2) 研究内容 2 (紀要pp. 93-103)

授業実践においては、生徒の確かな学びを支える「必然性」「思考・操作」「振り返り」「実践意欲」のキーワードに対して、手立てを考えながら行うことにした。

また、授業ミーティングをより効果的に行うことと、生徒一人一人の目標に対する評価を詳しく行うことができるように、評価シートを作成し、実践を行ってきた。

この評価シートでは、目標を達成したかどうかをどこで見るかという判定の拠り所を設定することで、評価基準としての役割を果たすことができるものにした。

この授業実践と評価の在り方については、対象者を挙げ、実践事例を通して明らかにした。



生徒の学びに着目した授業実践

実践例 I 国語

国語を学習の場の一つとして設定した「Self」と「Social」の目標を踏まえた取組として、題材「説明文を読もう」の授業づくり(目標設定、実際、評価)を行った。その際、「K-ABC心理・教育アセスメントバッテリー」の検査結果を反映し、学習課題の設定や手立てを考えた実践を行った。

実践例 II 家庭科(くらし)

家庭科(くらし)で行った保護者のアンケート結果やプレシートにおける「Social」の重点目標から目標設定を行い、題材「オリジナル朝食を作ろう」の実践を行った。また、授業の中でできるようになったことを家庭で自ら生かすことができるように取組を工夫した。

(3) 研究内容 3 (紀要pp. 104-107)

学校生活から社会生活へのスムーズな移行に向けたシステムを再検討し、実践事例を通して情報の精選や引継ぎ方法を検討した。特に、「つなぐ道具」としての個別の教育支援計画(移行)とサポートシート、「つなぐ場」としての支援会議を中心とした移行への取組において、進路先につなぐべき情報の精選を行うことと、具体的な支援先ごとに役割分担を行うことの有効性、そして卒業後の本人支援に対する方向性を見出すための会議の在り方について明らかにした。

個 体 的 支 援			
<進路先名>	障害者職業センター	ハローワーク	附属特別支援学校
①職場環境の調整 ・作業内容や人員配置など ②ジョブコーチとの連携	①ジョブコーチ支援 ・職場の環境調整 ②アフターフォロー ・巡回指導	①職業相談(本人) ②求人、雇用の調整	○アフターフォロー ・卒業生クラブ、同窓会 ・巡回指導 ・保護者支援
支援計画以降の将来の生活について(希望)	・施設への入所 ・グループホーム		
[参考資料] 右記資料を添付します	《添付資料》 個別の教育支援計画 サポートシート		

個別の教育支援計画(移行)の例

4 まとめと今後の課題(紀要pp. 108-109)

【成果】

- ・ 3Sの考え方を生かすことで、目標設定の際の視点が明確になるとともに、学ぶ場と学んだことを生かす場を意識した取組ができるようになったこと。
- ・ 生徒の学びに着目することで生徒のより主体的、意欲的な様子が増えてくるとともに、評価シートを活用することで一人一人のねらいが具体的になったり、評価を次の学習へと生かすことができやすくなったりと、より確実な定着を図ることができるようになったこと。
- ・ 「つなぐ道具」としてのサポートシートや個別の教育支援計画(移行)により、必要な情報について精選することができたこと。また「つなぐ場」としての支援会議の取組により、本人にとって必要な人と必要な情報を共有することができたこと。

【課題】

- ・ 3Sを構成する項目や関連性を更に整理し、3Sの考え方をより授業実践に生かしていくこと。
- ・ 評価シートの検討と授業ミーティングの実践を重ね、できることを増やし、自ら生かそうとする生徒を目指した授業づくりの充実を更に図っていくこと。
- ・ 卒業後のアフターフォローや関係機関との連携を継続することで、これまで以上に社会の期待や要請を集約して、高等部での授業実践の充実を図っていくこと。